

## 宮崎県知事 河野 俊嗣

### 新年を迎えて

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

皆様には、日頃から県政に対する温かい御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。



長引くコロナ禍や原油価格・物価高騰に加え、昨年9月の台風第14号で甚大な被害が発生し、本県は「百年に一度」とも言うべき難局に直面しております。

このため、漁業者の皆様への影響を緩和するため、カツオ・マグロ漁船の修繕整備や漁業用資材購入に対する支援に加え、台風被害からの一刻も早い経営の再開・再建に向け、漁港施設等の復旧や養殖を再開するために必要な種苗の購入費補助などを含む補正予算を編成したところであります。

今後も、漁業者の皆様が安心して漁業を営むことができるよう、引き続き、本県水産業の維持・発展に向け全力で取り組んでまいります。

昨年は、宮崎と神戸を結ぶ長距離フェリーの新船2隻が就航したほか、本年度中には、東九州自動車道が北九州市から日南市まで結ばれるなど、交通インフラの整備が着実に進展しています。

また、漁業においては、昨年3月に、宮崎市が1世帯当たりのカツオの購入額と購入頻度で初めて全国1位となるなど、消費拡大の取組が成果を挙げております。

これらは、長年にわたる関係者の皆様の努力のたまものであり、深く敬意を表し、感謝申し上げます。

さらに、今年、宮崎県が再置された1883年から数えて、140年目の節目の年となります。「WBC侍ジャパン合宿」「G7宮崎農業大臣会合」「宮崎県人会世界大会」等の開催を好機と捉え、近海かつお一本釣の漁獲量日本一のカツオや「おいしさ日本一」の宮崎牛をはじめ、本県の多彩な魅力を国内外に発信し、ブランド力を高めるとともに、インバウンドを含む観光振興や輸出促進など、世界の活力を取り込むグローバル戦略の展開を通じて経済成長につなげてまいります。

県では、令和5年度の予算編成に当たり、「コロナ禍・物価高騰等からの再生・復興」「中山間地域の暮らしの維持・活性化」「経済・産業成長の促進」「次世代育成、若者・女性活躍の推進」「安全・安心な県土づくりの推進」という5つの視点から施策を構築することとしています。

水産業におきましては、今年から本格的に運用が始まる、最新の設備・機器を搭載した新たな漁業調査船「みやざき丸」で、従来の沖合を中心としたカツオ・マグロ類の調査に加えて、沿岸資源や未利用漁場の調査など、本船を最大限に利用して、先端技術を活用した漁海況情報の高度化や新たな魚礁漁場の整備等を図るとともに、スマート漁業を足がかりとした多様な人材の確保・育成と高収益型漁業への転換を促進するなど、競争力のある漁業経営体づくりに取り組むこととしております。

また、宮崎初かつおフェアや県産水産物のPR、消費拡大イベントの開催に加え、新たな商品開発や販路拡大にチャレンジする事業者を支援するとともに、世界的な水産物の需要増大を商機とした水産物の輸出を促進するため、輸出に取り組む流通加工業者等の施設整備を支援するなど、水産バリューチェーンの最適化に取り組むことで、本県水産関連産業の活性化を図り、本県水産業の成長産業化を着実に進めてまいりたいと考えております。

今後とも、漁業者の皆様とともに関係者一丸となって全力で取り組んでまいりますので、一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

本年が、県民の皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。年頭の御挨拶といたします。

